

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072100439		
法人名	認定特定非営利活動法人じゃんけんぽん		
事業所名	グループホームじゃんけんぽん群馬町		
所在地	群馬県高崎市足門町1525		
自己評価作成日	令和6年3月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	令和7年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○認知症の専門職として、ご利用者やその家族に対応できる知識と技術を有している。
 ○と利用者個々のニーズを探り、タイムリーにニーズを満たす生活支援が出来る。
 ○個別支援に力を入れており、ご利用者のニーズを広げていく支援をしている。
 ○地域の相談拠点として広報活動を実施し、相談対応できる人材を有している。
 ○共用型認知症対応型通所介護を運営し、ニーズに応える体制が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の「その人らしさ」の実現に向けて、笑顔で幸せになってもらえるよう、職員が考えた理念を元に日々の支援を行っている。そのための情報収集様式として「軒先MAP」を活用し、関係性をわかりやすく可視化して、本人のこれからの生活がより豊かになるよう、日々の関わりの中で得られた情報を大切に、行きつけのうどん屋さんへ外出し、職員が事情を説明し新たな情報を得て帰ってくるなどの個別支援が行われている。また、看取りの希望があれば積極的に対応しており、看取りに関わった職員へのグリーフケアにも注力し、1つひとつの経験を糧に今後のケアへの道筋をつけながら、日々の中で利用者・家族・地域の関係者とのつながりを深める取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し、職員間で共有している。ケアに関してつまづいた時など理念を振り返り取り組めている	法人理念を元に実践していたが、職員より「自分たちの思いを理念にしたい」との意見が出され、3年前に作成した。会議などの場で自分たちの支援の「原点」として、業務に当てはめて確認・実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居時には地域との繋がりが必要であることを家族に説明し、ご利用者が住み慣れた地域との関係を絶やさない様に協力を求めている。	2年前に施設が移転した関係もあり、地域との関係性を作ることに注力して、区長や地域の多くの関係者とつながることができ、地域の花壇を管理させてもらったり、神社境内でのイベント参加・道祖神の野焼き・畑での農作業・運動会参加など具現化されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との繋がりを意識している事を通信などに記載し地域の方々に発信している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度運営推進会議を開きご家族や、安心センター、市役所の職員にも参加してもらいホームでの活動を報告している。地域の方々には民生委員や区長さんにも協力して貰っている	移転や参加者の交代で開催日や時間帯、声掛けなど試行錯誤しながら、少しでも良い方向性を検討している。「この中で何をしているのか」との意見がきっかけで、「認知症にならないために」などの勉強会をサロンや介護教室で企画することにつながった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高崎市の担当課や地域保活ケアセンターとの連携は意識して出来ている	行政関係者とも顔が見える関係を構築するため、積極的に顔を出している、そういったことがきっかけで、他施設での困難事例への対応相談や、「出張認知症相談窓口」などにつながり、地域の認知症支援へ尽力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設け、3カ月に1度勉強会をしその都度意識して出来ている。玄関や窓の鍵は開設時より閉めることなく自由に出入りが出来るようになっている	職員は「身体拘束はしないもの」として認識しており、それを実現するために定期的な学習や日々の支援を通じて検討・実践している。例えば「座ってられない人」をどう座らせようか検討するのではなく、「座っていなくても良いのでは」「どうしたら安全に本人の思いが実現できるか」を検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として虐待防止委員会を設け、年2回以上の研修会を設け勉強している。事業所内でも勉強会を行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、研修結果を全職員で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書に基づき説明を行い、同意を得ている。分からない事はその都度質問してもらい、分かるまで説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月2回施設内での会議を行い、ご家族や地域の方からの意見等共有している	来所時や運営推進会議への参加時、状況報告での電話などの機会に、得られた家族からの意見や要望を、サービス向上に向けて職員会議やケア会議にて協議している。	家族に具体的な意見や考えを投げかけて、運営に対する意見をいただける取り組みを検討することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	幹部会議にて職員から出た意見を法人内で共有している	法人幹部会議にて、法人内の他部署で行われている取り組みや運営方法などを職責者が持ち帰り、自施設でも活かせるかや、自施設ならではの取り組みに発展できるよう、今の利用者の状況を踏まえて、休憩時間の取り方なども協議している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々とのコミュニケーションを多く取り職員の声を現場に反映する事が出来ている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修へ参加し個々の成長と施設全体の成長に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着の事業所と連携を取り、情報共有や交流が出来ている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くよう努めながら、困りごとなど要望を聴取しニーズを探る事が出来ている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困りごとや分からない事がある時は分かるまで説明をし信頼関係が築けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	的確なアドバイスが出来るよう全職員が知識を得られるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のアセスメントを行い、周りとの関係性を意識しながらその人の出来る事		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	地域の方々にも協力してもらい、地域と切り離さない関係性を築けるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が継続できるような家族との関りや地域との関りを意識している	「利用者に笑顔で幸せになってもらいたい」思いから、日々の関わりの中で得られた様々な情報を、「軒下MAP」として関係性を可視化し、「会いたい人」や「やりたいこと」の実現を目指して、その人らしさが維持できるような支援につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者自らが関係が築けるような席配置を考えたり、一緒に出来る作業を考えたりと意識できている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終わっても、ご家族から相談があった場合は話を聞き、出来る事は協力し支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントと共に日々のコミュニケーションから本人のニーズを探り、困難な場合は言動を推察しケアに繋げている	日々の関わりの中でぼろっと出る言葉を聞き逃さないよう、職員は「拾う力」を重視している。会話が難しくとも、表情や雰囲気・反応を観察し、細かな変化にも気づけるようにしている。そうして得られた情報は電子媒体で管理し、管理者とケアマネジャーで重要に感じた内容を職員会議で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の言葉や基本情報、家族からの情報をききとり全職員で情報共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを繰り返し、一人一人の状態把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、全利用者のモニタリングを実施し、ケアプランに繋げている	各職員が利用者1～2名を受け持つ担当制をとっており、PDCAの考え方から月1回のモニタリングをケアマネジャーが中心となり、全職員と協議している。	ケアプランと各種記録が一貫性のある記録になるよう検討することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員それぞれが利用者のケアプランを意識してケア出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型デイサービスや緊急時のショート利用など多機能化に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の協力者マップを作成し、利用者それぞれの地域の地域資源の把握やその人らしい生活が送れるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の繋がりある医師に協力してもらい、往診や受診を家族と共に行っている。	本人・家族が希望する「かかりつけ医」「往診医」「協力医療機関」「専門医への受診」が選択でき、法人内の訪問看護師とも協力しつつ、必要な医療が提供できるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日が訪問看護の日となっており、毎週の利用者の身体状態を伝えアドバイスや助言を受けケアに繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があった場合には、ご家族や病院との連携を密にとり情報交換を行い、早期退院に向けた支援を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時から現在に至るまでその都度、ご家族に看取りについて説明し意向を確認している。看取りになった場合には同意書を交わし、医師と家族と連携を取り、その人らしい終末期を迎えられるように取り組んでいる。	「入居時」「1年ごとの定期」「体調悪化時」など思いは変化するので、必要に応じて、本人・家族に適宜思いの確認をしている。必要に応じて医師から説明が行われ、同意のもと、最期を迎える直前まで「本人らしさ」の実現ができるように支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時についてマニュアル化しており、実際に起きた時には、会議にて共有し今後に生かせるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防に計画書を提出し利用者や地域の方と共に避難訓練を行っている。	年2回の夜間・日中想定避難訓練を行い、心臓マッサージや人工呼吸の練習なども取り入れている。区長の支援もあり地域住民の避難支援や避難後の見守りの協力があり、施設として地域の避難所として機能できないか検討しており、備蓄は3日分とあわせて地域住民を想定して準備している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの利用者に合わせた対応で人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない声掛けが出来ている	個々のパーソナリティや呼称など個別に確認しつつ、人生の先輩として敬い、申し送り時に利用者個人が特定出来ない話し方や、風呂やトイレなどのデリケートな部分への誘いは「ちょっとこちらまで」と声をかけ、羞恥心や尊厳に配慮した支援となるよう、あらゆる面を職員間で協議している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者とのコミュニケーションの中で本人のニーズが出るような関わり方に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの利用者に合わせたペースでやりたいことを選択してもらえるような関わりをしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい色合いや衣装などをコミュニケーションを通し理解し行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたいものを会話の中で汲み取り日々の食事に繋げている	食事の材料は業者に依頼しているが、調理方法やメニューはその日の利用者の希望や職員の対応で柔軟に対応している。また、食べたい物を聞き、週2回の買い物で対応したり、個別の夕食などにもつなげたりしている。調理や盛り付け・片付けは、利用者とともにやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分が進まない人は一工夫し、ヤクルトやココア、パンやうどんなど食べたいものに変え食べられるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面台での口腔ケアやガーグルを使ったその場での口腔ケアなど本人の状態に合わせたケアをしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分でトイレに行ける人は自分の排泄タイミングで行かれ、見守りを行い、自分で行けない人は排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が出来るように声掛け案内している。	トイレでの排泄を基本に、日中はおむつを使わず夜間もなるべく使わずに済むように、排泄機能が衰えないよう支援している。蓄積された記録を通して排泄パターンを把握し、その人のタイミングとさりげない声かけで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘改善につながる食事作りや水分摂取に取り組んでいる。散歩や体操も取り入れ体を動かす機会を作っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴が出来る体制になっており、入浴剤や季節の物を入れ気分転換となる入浴環境を整えている	週2回の入浴を基本にしているが、本人の希望で毎日の対応も可能となっている。個浴を原則としているが、2人入浴の際はパーテーションを設置して見守りをする事で、1人でお湯を楽しめる時間になっている。マンツーマンでの対応で、風呂の時間に個別の会話ができるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に合わせた居室作りをしている。写真や人形を置きその人らしさを心掛け安眠に繋げている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	会議やその都度、職員間で内服薬の情報を共有し、変更時には副作用、注意事項、状態変化を記録して確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴をアセスメントし役割や励みに繋がる支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	デイの送迎に同行したり、近くのグラウンドで散歩しながら地域の方々と交流したり、いつでも好きな時に出かけられる支援をしている	施設で飼っている犬との散歩や、デイサービスの利用者送迎時のドライブ・買い物など、日常的に外出を行っている。「軒先MAP」で得られた情報を元に、馴染みの場所への個別の外出も多く実施し、外出先で得られた「つながり」や「本人の会話」情報を元に、次の支援につなげている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はご家族にお願いしている。ホームでは必要な物や食べたいものがあれば立替金にて購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話で本人様と話したい時には、電話を取り次いで、会話ができるように支援している。本人名義の携帯を預かり、連絡したい時には利用して貰っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは温度や音に配慮し、ご利用者が不快にならないよう配慮している。季節を感じられるようその時に合わせた作品を利用者と作っている	共用空間には、利用者個々の状態に合わせて机とイスを配置し、車いすなどの動線も確保している。台所のカウンター越しに、鍋の音や湯気を感じて、利用者が調理を気軽に手伝えるようになっている。施設で飼っている犬の鳴き声も適度に聞こえ、マスコットとしてかわいがっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	こたつを設置し、一人の時間や他利用者との交流の場を工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は落ち着いて過ごせるように、出来るだけ自宅と同じ環境になるように私物を持ち込んで頂いている。写真等を飾り、安心できる空間になる事を心掛けている。	家庭での生活状況に近づけられるよう、床で休んでいた方は布団対応ができ、家具の配置は家庭の雰囲気に合わせて作っている。また、プライベートな空間には職員の存在感を少なくするなか、部屋での活動は安全面に配慮し、面会時にはお茶とお菓子を提供して、長居しやすい支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や居室での家具の配置など、その人合生活が送れるよう配慮している		